

暗闘との格闘

2024年2月4日

エペソ 6・10～13 2・1～3

ローマ 13・11～14

序：エペソ書は教会論

(1)永遠の昔からの選び + 贖い・復活の恵み + 救い主を信じる信仰 = 救い
父 子 御霊

(2)天上の教会	地上の教会
見えない教会	見える教会
普遍的教会	地域の教会
勝利の教会	戦闘の教会

(3)主イエス・キリスト と 教会

花婿	花嫁
夫	妻
かしら	からだ

(4)聖徒の教会生活、家庭生活、社会生活 (互いに従い合う)

救いを感謝する礼拝者
家庭・社会における証し人

(5)エペソ 6・10～20 この手紙の終わり・結び・クライマックス
クリスチャン生活は戦い・戦闘
戦場にいる雄々しいキリストの兵士

I. 戦闘の教会 = 地上の教会

世は戦場

聖徒は兵士

敵 = 悪魔 悪霊 (世、罪、古い人を通して)

四六時中、ひっきりなしに攻めてくる

狡猾に、硬軟使い分けて "

具体的に、しつこく、気づかれぬように、あるいは強烈な脅しによって

聖徒が自力だけで戦うなら敗北100%

II. 戦いに勝利するには

(1)強められなさい (受身、神に強くしていただく) 自分ではできない

①主にあって > 主によって

主の中にあって

②大能の力にあって > 大能の力によって

1・19の祈りの答え

神の大能の力によって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大であるかを知ることができますように

(2)神のすべての武具を身に着けなさい (素手では戦えない、自前の武具は無効)

神由来の、神が備えてくださる全武具を実際に身につける 保身用

①悪魔の策略に対して、堅く立つため
素手・丸腰では、この狡猾・強力な相手と戦えない

②この格闘は目に見える人間相手ではない
目には見えないが厳然と存在し、活発に活動する暗黒の支配者
悪霊
∴目には見えないが厳然と存在し、働かれる神にあって対抗

(3)神のすべての武具を取りなさい
神が備えてくださるすべての武具を取りなさい 攻撃用

①邪悪な日に際して対抗できるように
今はすでに悪い時代、毎日、毎時が試練・困難の時
絶えず悪魔・悪霊の攻撃にさらされている

②一切を成し遂げて堅く立つことができるように
戦いのための用意をすべて終え、敵が攻めてくる度に打ち負かし、その
すべての闘いに勝つ

Ⅲ. 結び

(1)ごく最近まで、世界は平和、安全だと世の人もキリスト者さえも思っていた
それは、外面的、一時的、限定的なものでしかなかったのだが

(2)戦いは悪いこと、あってはならないこと、してはならないことと、性善説に基づき
安易な平和主義を理想とし、現実を無視・回避して生きていた

(3)しかし、実際は人間の墮落以来、光と闇、神と悪魔、光の子らと闇の子らの間には
絶えず戦いが継続してきた

(4)信仰者となる前は悪魔の支配下にあったが、主イエス・キリストを信じて神に属
する者となって、両陣営の格闘は明瞭・熾烈であることを認識するようになった

(5)無視しようとしても、忘れたとしても、この世は戦場であること、自分がこの強大
な敵と戦わざるをえない兵士という身であることを自覚しなければならない

(6)格闘（1体1）に勝利するには、自分と敵（存在と力）をまずよく知ること
戦いの方法を考えること
味方を見つけて、ともに戦うこと

(7)敵は人間ではない、目には見えないが空中の権威を持つ支配者＝悪魔と悪霊たち、
神の武具を用いて戦う、主において戦う（主が万軍の主、司令官）
戦いに必要なものを自分は持ち合わせていない 神に供給されなければ

(8)そうすれば、損なわれることなく、動揺することなく、恐れなく立って勝利できる

(9)戦いは新しく生まれ、神に属する者となったからこそ、ある 世に在る限り

(10)陥りやすい間違いに注意
戦争・不幸・苦難にあえば、神などいない
平穏無事・不自由なく安逸ならば、神などいなくてもよい、要らない